

液化ガス貯蔵設備の容量等

(1) 現行設備

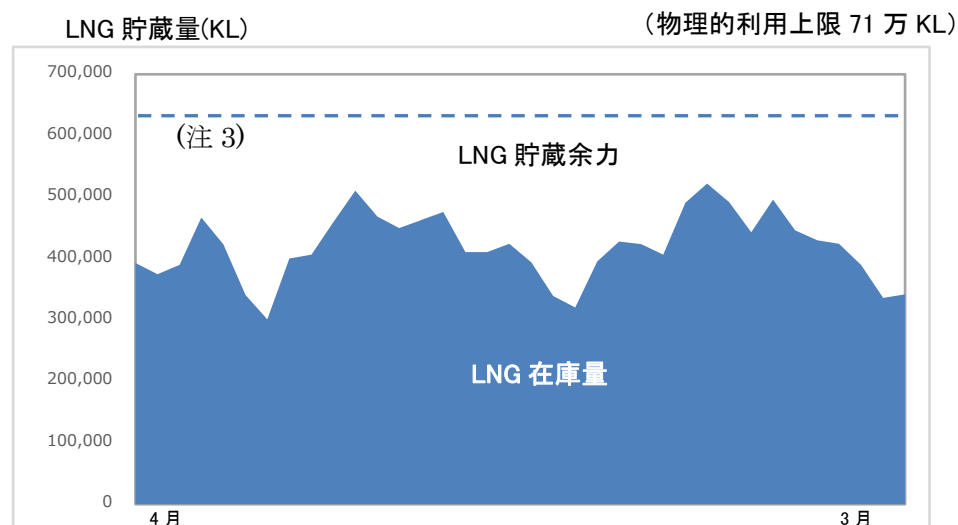
LNG 船バース	貯蔵設備	気化設備
最大船型： モス型 147,000 m ³ 80,229DWT メンブレン型 217,000 m ³ 109,351DWT 円筒方式連続タンク型 180,000 m ³ 80,300DWT 水深：14m	80千kl×4基 100千kl×4基 合計720千kl	オープンラック式 ^{注1} 125t/h×4基（高圧用） (参考) 175t/h×3基（低圧用） 180t/h×3基（中圧用） 90t/h×2基（中圧用）

注1. オープンラック式の能力は海水温度16℃以上の場合です。

注2. 気化設備の低圧用および中圧用は、東北電力株式会社の東新潟火力発電所向け専用です。

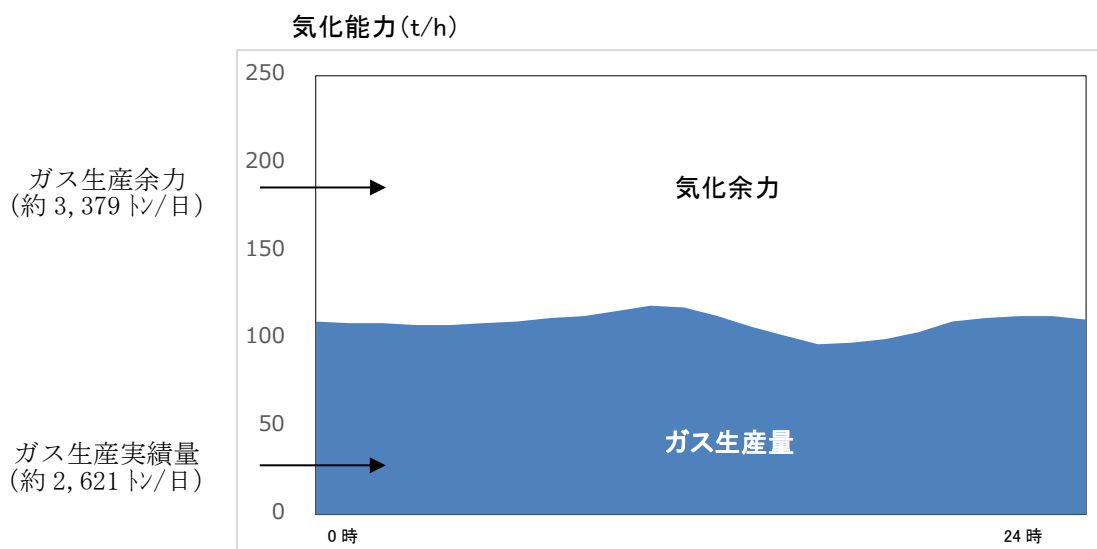
注3. 気化設備の基数には、定期整備や修繕工事等の際に使用する予備基が含まれており、高圧用気化設備の最大送出ガス能力は250t/hとなります。送出ガス圧力は6.57MPaです。

(2) 貯蔵余力のイメージ図



- 注 1. 上図は当基地の LNG 貯蔵のイメージを示すものです。当基地の傾向として、季節に関係なく、LNG の受入状況、電力（ガス）の需要動向、発電所等の設備工事等によってタンク内の在庫は大きく変動いたします。
- 注 2. 当基地はルームシェア方式を採用しています。配船調整および LNG の貸借を前提に、年度終了時に在庫が 0 となるように、年間一定の割合で払出を行う場合、一般的な LNG 船 1 隻程度（約 13 万 KL）の利用が可能であることが見込まれます。なお、詳細に関しましては別途お問い合わせください。
- 注 3. 2025 年度から 2026 年度にかけて、LNG タンク（8 万 kℓ×2 基）のフランジ部改良工事を実施しています。工事期間中は当該タンクが順次使用不可となるため、その間の物理的利用上限は 63 万 kℓ程度まで低下します。

(3) 気化余力のイメージ図



- 注 1. 上図は 2024 年度において当基地が最もガスを生産した日における LNG 気化余力（日量）をイメージで示したものです。実際の気化余力は、電力（ガス）の需要動向、発電所や気化設備等の定期点検工事・設備工事等によって大きく変動いたします。
なお、上図は高圧用気化設備の気化余力のイメージ図であり、東北電力株式会社の東新潟火力発電所向け専用である低圧用および中圧用の気化設備は含まれておりません。
- 注 2. ガスの送出においては、 $41.860\text{MJ}/\text{m}^3\text{N}$ 以上の発熱量を確保する必要があります。

(4) プラント設計上受入可能と見込まれるLNGの品質

組成	メタン	85.12 体%以上	96.805 体%以下
発熱量	40.801 ~ 46.114 MJ/m ³ N		
液密度	432.5 ~ 474.6kg/m ³		
その他	固形またはその他の不純物及び異物を含まないこと。		

注 1. 受け入れることができる LNG の品質は、個別の利用条件やタンク運用実態によって異なるため、上記の数値は目安とします。

注 2. 上記はプラント設計上の条件であり、ガスの送出に必要となる性状が確保されない品質の LNG を調達する場合には、既存基地利用者との協議等を行っていただく必要があります。

(5) 配船計画のおおよその策定スケジュール

当年度の配船計画の策定スケジュールは概ね以下のとおりです。

- ・前年度 7 月頃 ・ ・ ・ LNG 売主との間で配船協議を開始
- ・前年度 12 月～3 月頃 ・ ・ ・ LNG 売主との間で年間配船計画を策定

(注) 上記はおおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは様々な LNG プロジェクトによって異なります。